
カヌー旅日記 3

デスペラード

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カヌー旅日記3

【ZPDF】

N1409F

【作者名】

デスペラード

【あらすじ】

夜の日本海を、シーカヤックを漕いでついに横断！

やつと仏谷の集落が間近に迫ってきた。じばらく小さな防波堤の内側や集落の様子を観察してから、少し離れた砂浜に上陸する事に決めた。

何故なら、キャンプ禁止の大きな立て看板が海上からも見えたからだ。やはりこの土地も、一部の心無い人達のせいで悲しい方策を取るようになったみたいやなあ。

そしてついに、小さな入江になつた浜に上陸。

ほんのじばらくの間離れていただけだが、大地に再び触れて無上の喜びが込み上げてくる。

出航してから約2時間、午後10時を回っていた。俺は今、何故こんなにも気持ちが充実してゐんだらつゝ、嬉しさのあまり叫び出したくなつた。

もしもある時、傍から見る者がいれば…イソイソと必死で浜に上がる漂流難民みたいに思えたやうなあ。

しかし上陸したは良いが凄まじい風雨が叩きつける状況の中、そんな事を考える余裕もなく急いで愛艇を引き上げてキャンプの設営を始めた。

まるで風雨と競争するかのように、必死で浜の立木を利用してタープを張りテントを組み立てる。

設営が終わり一息ついたら無性に腹が減ってきた…タープの下に腰を降ろし、愛艇から引っ張り出したハムをワイルドターキーと一緒に貪るよつに食べる。

腹が少し落ち着いてくると、またなんとも幸せな気分になつてきた…ほんまに俺つて単純で判りやすい奴やなあ…と薄笑いしながら思つたりする余裕も出てきた。

腹立たしい事に、こつちが必死でやつと居心地が良いねぐらを設営したとたん、風雨のやつはまるで見計らつたように収まつてきやが

つた。

まあ自然現象にいつまでも腹を立てても仕方ないよな。

ナイロンの薄い布切れ一枚なのに、何故か不思議な安息感のあるテントに入り、体を包んでくれるシユラフに潜り込んで寝よう。でもその前に、少しだけ本を読みたいな。今夜は野田さんの本にしようか、それともSFにしようか。幸せなひと時の迷いの内にいつしか充足した眠りに入っていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1409f/>

カヌー旅日記 3

2010年10月10日22時49分発行